

明治三十九年中光濟航海報告

第二航海

月日時間 着地 發地 任務概要

三月廿二日午後二時

仁川

全 廿三日午前七時

七發嶋

燈台補給

全 全日全十時三十分

七發嶋

全 全日午後三時三十分

鳥嶋浦

全 廿六日午前五時五十分

鳥嶋浦

全 全日全七時三十分

竹嶋

燈台補給

全 全日全十時十五分

竹嶋

全 全日午後五時四十分

牛嶋

燈台補給

全 廿七日午前八時

牛嶋

光濟航海報告

全	三月廿七日午前七時三十分	巨文嶋	燈台補給
全	全日午後七時十五分	巨文嶋	
全	廿八日午前六時三十分	釜山	燈台建設位置調査及草梁導燈建設材料運揚
全	三十日午前五時五十分	釜山	
全	全日全九時五十分	蔚崎	燈台補給及燈台建設位置調査
全	全日午後七時	蔚崎	
全	廿一日午前七時五十分	竹邊湾	燈台建設位置調査
全	全日午後零時五十分	竹邊湾	
四月一日	午前七時三十分	元山	
全	六日午前九時	元山	
全	全日全十時	麗嶋	燈台建設位置調査
全	全日午後二時五十分	麗嶋	

神戸兜玉殿文庫蔵所印刷

0302

令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	令	四月六日午後七時
十日午後五時五分	今日午後八時四十分	今日午後四時四十分	今日午後十一時	十日午前七時十分	今日午後六時	九日午前十時	八日午前九時五分	今日午後四時五分	今日午後十時四分	七日午前九時	長箭洞
	釜山		鴻嶋		釜山		迎日湾		水源端		長箭洞
釜山		鴻嶋		釜山		迎日湾		水源端		長箭洞	
			燈台補給				燈台建設位置調査		燈台建設位置調査		

光澤虎用

0303



五月廿日午前十一時	仁川			
第二航海				
五月廿八日午後一時三十分		仁川		東海岸燈塔建設材料輸送及税関用汽艇回航爲ノ 塚本技師復業(漢紫塩沙系調査ノ爲メ)
全 廿九日午前六時三十分	七發嶋			燈台補給
全 全日全 九時		七發嶋		
全 全日午後四時三十分	濟州			濟州府政此顧問支部事務規程在地方漢紫塩 系調査 秋尾氏復業
全 廿一日午前九時三十分		濟州		
全 全日全 十時五十分	牛嶋			燈台補給
全 全日午後六時		牛嶋		
六月廿一日午前七時三十分	釜山			
全 全日全 八時		釜山		
全 二日午後二時	神戸			購入小蒸釜四隻ヲ川崎造船所ヨリ使領

光 濟 虎 用 巻





全 全日 午後五時四十分	全 三日 午前九時	全 全日 午後五時四十分	全 二日 午前五時三十分	七月一日 午前六時三十分	全 廿日 午後五時三十分	全 廿八日 午後四時	全 全日 午後七時	全 全日 午前九時三十分	全 廿七日 午前八時三十分	全 全日 午前八時三十分	六月廿六日 午前三時三十分
欽知嶋東港		釜山		門司		釜山		水源端		長箭洞	
	釜山		門司		釜山		水源端		長箭洞		元山
漁業視察	預置汽視間用汽艇ニ復曳行			炭水補給				燈台建設材料陸揚		視察、燈台材料陸揚、爲、帆船備入	

光 海 易 月 等

神戸五歌文清原所印刷

0308



七月四日午前一時五分	左	今日午後七時四十分	羅老嶋	右知嶋東港	全前
左	今日午前五時三十分	羅老嶋	羅老嶋	燈台補給、漁業視察	
左	今日午後八時三十分	巨文嶋	巨文嶋	燈台補給、漁業視察	
左	今日正午	所安嶋	巨文嶋	漁業視察	
左	今日午後四時三十分	所安嶋	所安嶋	燈台補給、漁業視察	
左	六日午前十時三十分	木浦	所安嶋	燈台補給、漁業視察	
左	今日午後八時三十分	木浦	木浦	燈台補給、漁業視察	
左	九日午前四時三十分	七發嶋	木浦	燈台補給	
左	今日午後九時三十分	七發嶋	七發嶋	風波、為、夜泊	
左	今日午後十時三十分	外相嶋	七發嶋		
左	今日午後八時三十分	外相嶋	外相嶋		

光濟虎用箋

七月十日午前一時三十分	全 全 全 六時半合	價 誼 嶋	外 廻 嶋	全 前
全 全 日 午後二時三十分		價 誼 嶋	價 誼 嶋	
全 十日 午前七時三十分	仁 川			
第三航海				
八月四日午後一時		仁 川	仁 川	
全 五日 午前六時三十分	七 發 嶋		七 發 嶋	燈 台 補 給
全 全 日 全 十時				
全 全 日 午後二時	竹 嶋		竹 嶋	燈 台 補 給
全 全 日 全 七時半分				
全 六日 午前六時	牛 嶋			燈 台 補 給
全 全 日 全 九時		牛 嶋	牛 嶋	

ナ 海 号 川 三

0310

神戸元五郎文庫蔵所印刷

左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	八月六日午後一時五分
全日午後三時四十分	全日全九時	全十日午前五時	全日午後四時三十分	全日全七時三十分	全九日午前八時	全日午後六時三十分	全八日午前九時三十分	全日午後七時四十分	全七日午前六時三十分	全全日全六時	巨文島
	蔚崎		釜山		鴻嶋		門司		釜山		巨文嶋
蔚崎		釜山		鴻嶋		門司		釜山			
	燈台看守退息所建築材料陸揚				燈台補給		炭水補給				燈台補給

光濟虎用巻





九月廿五日午後二時四十分	麒麟島	龍威島	風波、舟、避難
全 全日全 五時四十分	麒麟島	麒麟島	
全 廿六日午前五時五十分		麒麟島	
全 全日全 十一時四十分	椒 嶋		漁業調査
全 全日午後五時五十分		椒 嶋	
全 全日全 四時	鎮南浦		汽艇勇丸、鎮南浦税関、引渡
全 廿八日午前五時		鎮南浦	
全 全日午後三時五十分	多獅嶋		航路標識視察
全 廿九日午後五時四十分		多獅嶋	
十月一日午後四時四十分	仁 川		
第 五 航 海			
十月七日午後零時五十分		仁 川	

登各浦給釜山元山港舟浮標運航及沿岸、利源網  
 便業者永由管規竹田燈台局長新聞記者二名

神戶元五郎文書館所印刷

0314







全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	十月廿日午後九時十分
廿八日午後一時十五分	全日午後三時十分	廿七日午前六時十五分	全日全十時十分	廿六日午前六時三十分	全日全四時	全日午後零時三十分	全日全十時三十分	廿五日午前六時三十分	全日午後零時四十分	廿三日午前八時	元山
	栢津		城津		遼湖		新浦		西湖		元山
栢津		城津		遼湖		新浦		西湖		元山	
	鏡城視察		視察		漁業視察及港湾調査		漁業視察		咸興視察		浮標二個ヲ元山税關ニ引渡ス

光緒二十九年

0317





全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	十一月十四日午後四時五十分
全	今日午後三時三十分	今日午後十一時	今日午後十時五十分	十六日午前六時三十分	今日午後四時三十分	今日午後零時三十分	今日正午	今日午後十時十五分	今日午後九時十八分	十五日午前六時	長箭洞
	竹邊湾		墨湖		汪文津		東津		巨津		
竹邊湾		墨湖		汪文津		東津		巨津		長箭洞	
	港湾調査		港湾調査		港湾調査		港湾調査		港湾調査		

六 海 島 月 誌

0320

神戸元玉歌文書館所蔵

全	十一月十七日午前八時五分	丑山浦		港湾調査
全	全日全十時五分		丑山浦	
全	全日午後二時	迎日湾		港湾調査
全	全日午後八時		迎日湾	
全	十八日午前七時五分	釜山		坂島長塚技師野崎技士一行新聞記者三名退駐
全	十九日午後十時		釜山	
全	廿日正午	門司		炭水補給
全	廿一日午後五時五分		門司	
全	廿二日午前七時十分	釜山		
全	廿四日全八時五分		釜山	
左	全日午後一時十分	馬山浦		本内總長及工務局長徐再建警務局長金彰漢 農商工部技師金東完等便乗
全	廿六日午前九時十分		馬山浦	

光 齋 虎 月 誌

全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	十一月廿六日午後三時五分
全日午後零時五分	全日全八時五分	廿九日午前三時	全日全五時三分	全日午後零時五分	全日全十一時三分	廿八日午前七時	全日午後七時五分	全日全十一時四分	全日全九時三分	廿七日午前六時三分	統營
	莞嶋		山底浦		牛嶋		巨文嶋		三川里浦		統營
莞嶋		山底浦		牛嶋		巨文嶋		三川里浦		統營	
	視察		濟州府視察		城山浦次之及雜詰製造所視察		視察		港灣視察		漁業視察

神戶元五郎文庫蔵所印刷

0322



全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	一月二日午前六時
今日午後三時三十分	今日全十一時三十分	五日午前三時十五分	今日全七時三十分	今日午後五時四十分	四日正午	今日全四時四十分	今日午後零時三十分	今日全十一時五十分	三日午前七時三十分	今日午後五時	
巨文嶋		牛嶋		竹嶋		木浦		七祭嶋		木浦	
	牛嶋		竹嶋		木浦		七祭嶋		木浦		群山
燈名補給及漁業調査		燈名補給及塩業調査		燈名補給				燈名補給		塩業調査	

神戸元五郎文活版所印刷







光濟號要目概要

製造所

神戸市川崎造船所

竣工年月日

三十七年十一月八日

回航年月日

三十八年六月六日 神戸発

三十八年六月八日 釜山着

全長

二二。呎

巾

三。呎

深

(上甲板迄) 二一呎

(下甲板迄) 一三呎六吋

喫水

一四呎六吋

排水噸數

一六。噸

総噸數

一。五六七八噸

下甲板以下、噸教 八五六、二噸

最大速度 一四、七七節

公稱馬力 一八五、四馬力

荷物積載容量

前部艙 九四二四立方呎 二三五、六噸

後部艙 六一五二立方呎 一五三、噸

前部艙室 六五五二立方呎 一六三、八噸

後部艙室 一八一〇立方呎 四五、三噸

合計 二三九三八立方呎 五九七、七噸

但し四〇立方呎ヲ以テ一噸ト看ス故ニ石炭ヲ搭載スル積載量ヲ低減ス

公試成績

施行年月 三十七年九月二十九日

神戸歴史文庫蔵所印

平均全速力	一四、七七三節
回 転 教	一一〇乃至一一一
送水機回轉教	四〇三乃至四六五
給 水 機	一四乃至一五
送 風 機	二四五乃至二九五
實 馬 力	二四三七、七六四馬力
真 空	二五吋
喫 水	(前)一一呎七吋 (後)一三呎一〇、五吋
推 進 器	
教	二
直 径	一二呎
ピ ッ 子	一三呎六吋

九 年 用 器

翼 教 四

全 展 長 面 積 九 二 平 方 呎

杙 質 鑄 鐵

重 量 (二 個 三 寸 半) 二 一 三 八 噸

復 水 器

制 式 橫 置 表 面 凝 縮 器

外 板 鑄 銅 板

管 板 真 鍮 (厚 五 寸)

細 管 真 鍮 (外 徑 1/4 吋 B.P.C. 18)

冷 却 面 積 一 三 九 七 平 方 呎

武 器

大 砲 保 式 四 十 七 密 米 突 重 速 射 砲 二 門

神戶元玉藏文書館所抄

0330

小銃	三十年式村田銃 三十挺
拳銃	九挺
象組員	
艦長	一
運転士	三 (中一為韓人)
機関長	一
機関士	三
海軍豫備校下卒	九
水夫	三 (韓人)
水夫見習	四 (全前)
火夫	二 (全前)
火夫見習	一 (全前)

光緒二十九年

賄部 三

水火夫賄部 二 (釋人)

給仕 六

合計 八四

炭庫容量

右舷炭庫 九一噸

左舷炭庫 四八噸

中央炭庫 七五噸

合計 二一四噸

但レ四二五方呎ヲ以テ一噸ト看做ス

二重底容量

一番 バラストタンク 一一三、七〇噸



二番タンク 六五、八噸

三番タンク 三一、三噸

四番タンク 二六、五噸

前部ピロタンク 三〇、噸

後部ピロタンク 一八、噸

合計 二八五、三噸

(二、三番タンクは中央縦直、障板を以て右舷左舷に二槽に分る)

飲料水満載量 一五、噸

機関要目

汽機制式 三回膨脹三汽筒直立イ

数 二基

汽筒筒直全行程 16" 26" 42" 30"

曲 肱	互、百二十度、角度ヲ表ス
滑 弁 制 式	高圧「ピストンバルブ」 中低圧D形弁
吸 錐 環	練鋼製「ラムスボット」式
蒸 氣 水 圧	高圧ニセ。 中圧一八。 低圧九。磅
車 軸	(軟鋼製)
曲 肱 軸	直徑(實体) $\frac{1}{2}$ 寸 $\frac{3}{4}$ 寸 長 五呎四、五吋
	全 長 全
	全 長 全
推 進 軸	全 長 六呎
タ ン 子 ル シ ヤ フ ト	第一 全 長 二呎一〇、七五吋
	第二 全 長 全
プ ロ ポ ラ レ シ ヤ フ ト	全 長 四三呎八、二五吋

神戸元玉歌文活版所印刷

0334

(プロパライヤフト)ノ重量ハ約五噸

換罐要目

制式

レタン、チキアブ、シングルエンジンツト(ハウテ式強圧通風装置)

教

ニ

長

一四呎

全

一四呎九吋

竈筒制式

モリソン式 四二吋

煙管全教

ブレンチエラ 473 (外径2 1/2" #11 R.R. 4)  
マナーマエツト 49 ( " " # 5/16 )

72  
379 ( " " 3/16 )

全長

八呎二、二五吋

火床棧長

五呎六吋

全間隙

八分、三吋

此等虎用巻

觸火面積 二四七七、一七四平方吋

火架面積 五五、一二五平方吋

H/G 四四、九三七平方吋

煙管切斷綫面積 一〇、四六〇平方吋

煙筒全、高 六呎六吋 三二呎

全 厚 上十六分、二吋 下十六分、三吋

使用圧力 一八〇ポンド

副 氣 罐

教 一

高 一〇呎九吋

全 五呎

制 式 バーチカル、チユブ ホイラー

0336

使用圧力	一二〇磅
外板ノ厚	二分ノ一吋
竈筒ノ厚	十六分ノ九吋
クローズドチエーボ厚	八分ノ三吋
火架面積	一三・五平方吋
火架面積	二五・四四五平方吋
煙管教至	フュームチエーボ 84 (外径) #11 B.W.G. ヌマーチエーボ 24 (内径) #2 B.W.G.)
全長	三呎三吋
補助機械	
給水唧筒	一 水筒直径七吋 汽筒直径九吋 行程二吋
式ウエヤース	

88

光 齊 虎 用 意

0337

バラスト唧筒 一 水管直径七吋 汽筒直径六吋 衝程八吋

式直働式

汚水唧筒 一 水管直径四吋五分 汽筒直径七吋五分 衝程六吋

式直働式

送水唧筒 二

揚 錫 機 二

揚 重 機 二

補助給水器 一

送 風 機 一

工業原働機 一

癸 電 機 一 10 K.W. 5120A. カールン. コンバーター. マルチプル  
110 4-12 450R

舵 取 機 械 一

神戸元玉版文活版所印刷

0338

瓦斯機関

一 (未設)

タレミダ及  
スターケンダ

機

二

旋盤

一

電燈装置

探海燈

一名 (約四〇〇燭力)

十六燭白熱燈

一二一個

三十二燭白熱燈

四個

移動燈

六個

全 堅

四個





雑外報

大臣

庶



本信爲御参考供貴覽候間御用濟

明治二十年三月十五日

軍令部



司



司

三月廿六日外務省へ返却

村松

東御軍令部  
庶務  
林

各班



田中

田中

外務大臣

務大臣

上ハ直ニ御返却相成度候也

松村

田中

印

0341

機密信第十七號

獨逸カ貯炭所用トシテ暹羅領タル  
一島ノ租借ヲ申出タリトノ風説ニ聞カ  
件

本年七月廿日ハ朝日新聞ニ盤谷ヨリノ私報トシテ獨逸國  
皇帝陛下ハ暹國政府ヲ勸誘シテ獨逸貯炭所用トシテ島  
ヲ貸與セシムコトノ希切ヲ稟テ玉ス云々ノ記事アリ獨逸外務省  
ハ其ノ事實無根ナル旨ヲ公言シタル由當地新聞紙上ニテ承  
知致ルニ付此頃外務大臣ニ面會シテ何等之ノ實ニテ事實  
ノ有無ヲ尋ヒ奏ス處大臣ハ右ハ全ク無根ノ風説ニ過キス答  
ヘシ尚ホ然ラズ續テ左ノ事實實ヲ然ラシ候

先頃北獨逸ヨリト汽船會社ノ當地支店支配人

ヨリゴロシーヤン島(當港出入船舶カ貨物積卸為一  
 時寄船之所)貯炭用トシテ土地ノ借中ヲ願出ラヌアリ全  
 然之ヲ拒絕シタルニ就該島貯炭船數留タル許可ヲ  
 得タシトノ事ニ付其ハ差支ナシト答ヘ置キタリ然レ今日迄未  
 タ之ヲ實行スルノ形跡ナシ右ノ風説ハ多分此事ヲ訛  
 傳シタルモノナラシト云々

獨逸カ當テ羅羅領馬束半島ノ西岸ニ近キプロランカ島

島(Mie Bankau's Island)貯炭所用トシテ租借ヲ

請求シタルコトアルハ事實ナラハ明治三十二年七月七日付機密通信第

四二號參照)右ノ風説モ全然何等ノ因縁キ義モ無之者ヨ

リ時世上ノ注意ヲ惹キ遠ニ獨逸外務省ヲヒテ公然之ヲ否認

スルハ要ヲ認メタルナラシク存セラレ候

右為少參考及報告候故具

秘傳

0343

明治三十九年三月廿五日

右様

臨時代理公使 田邊能三郎

外務大臣 子爵 林董殿

0344



九  
外  
書

供覽



本書四月十八日外務省へ送却

村松

四月十八日  
印

本信爲御參考供貴覽候間御用濟ノ上ハ直ニ御返却相成度候也

明治三十年四月九日

村松

軍務局

局員

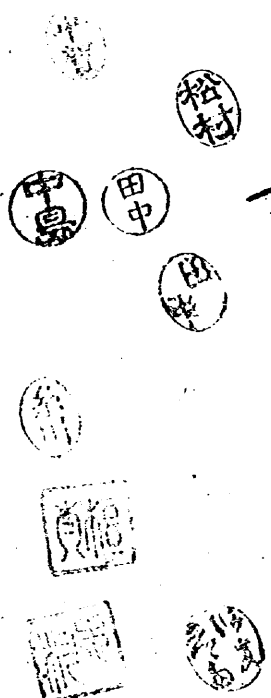


林 外務大臣

軍令部



奇  
次  
海軍大臣  
林



0346

送第 二一 号

千九百七年度英國海軍豫算ニ関スル件

(久保田納)

千九百七年度英國海軍豫算昨日議會ニ提出セラレ矣右經費豫算總額ハ三千百四十一万九千五百磅ニシテ之ヲ昨年度ノ三千百八十六万九千五百磅ニ比スレバ四十万磅ノ減額ヲ示シ居リ矣モ海軍大臣ノ説明ニ依レバ豫算ノ運用上實際ニ於テハ百四十三万磅弱ノ減額トナル可キ筈ナル趣ニ有之候

右ノ内本年度造艦經費ハ削減ヲ加ヘラレタル主要ナル項目ニシテ其豫算額ハ八百十萬磅ト計上セラレ昨年度ノ九百二十三万五千磅ニ比シ百十三万五千磅ノ減額トナリ尚ホ備砲費ニ於テ昨年度ニ比シ四十九万七千五百磅ノ減額ヲ示シ居リ候尤モ造艦經費ノ科目中他ノ項ニ於テ昨年度ニ比シ却テ増額

0347

ヲ示シ居ルモノアリ為メニ造船、修理及維持費等ヲ包含スル科  
目ノ本年度合計ハ千三百廿三万千百磅トナリ之ヲ昨年度ノ全一  
科目合計千三百八十二万三千三百磅ニ比スレハ結局ウチ万磅弱  
ノ減額ヲ示スニ過キサルコト、相成候  
新艦建造ニ関シテハ既ニ昨年七月議會ニ於テ「ドレットノート」型  
戦闘艦四隻ヲ建造スヘキ原計畫ヲ變更シテ之ヲ三隻ニ減シ  
更ニ其内一隻ハ本年開カルヘキ海牙平和會議ノ結果列國ノ平  
備縮少ニ関シ何等有効ナル協約ノ訂結ヲ見ル能ハサル場合ニ於  
テ始メテ之ヲ建造ニ着手スル事ニ決定セラレ居ルヲ以テ本年度  
ニ於テハ右「ドレットノート」型戦闘艦二艘又ハ三艘（事實三艘ヲ  
建造スルニ至ル可キハ勿論ナリ）並ニ快速無甲裝巡洋艦一隻大  
驅逐艦五隻一等水雷艦十二隻（從來沿海驅逐艦ト稱セラレタルモノ）  
及潛航艇十二隻ノ新造ヲ計畫致居候

0348





セラル可キ苦ニシテ豫定ノ企画ヲ実行ニ終ル迄ニ尚ホ多少ノ時  
日ヲ要ス可シト雖モ本年四月ニ至ラハ「テームス」河口艦隊ハ全定員  
及一切ノ準備充實セル戦闘艦六隻、甲装巡洋艦五隻(他ノ一  
隻ハ本年五月中之ニ加ル可シ)及小巡洋艦三隻ヲ備フルニ至ル可  
キ苦ニ有之候

以上ハ本年度英國海軍ノ豫算ニ関シ稍ヤ注意ニ値スル廉々ノ綱  
要ニ有之候如中ニ付キ本國艦隊ノ創設ニ関シテハ保守党政客  
中ニ<sup>維々</sup>右ハ其実自由党内閣ノ企畫セル一種ノ政費節減策ニ外  
ナラサルナキヤラ疑フ者モ有之候右為念申添候敬具

明治四十年三月一日

在倫敦

總領事坂田重次郎

外務大臣子爵林董殿

外務

供覽

第七一號

外務

吉川

にせり

伯刺西爾合衆國ハ今般千八百九十九年七月二十九日海丹ニ於テ調印セラレタル陸戦ノ法規慣例ニ関スル條約並ニ「ジエネヴア」條約ノ原則ヲ海戦ニ應用スル條約（同條約第十條ラ陸ニ加盟致候趣在本邦和蘭國特命全權公使ヨリ通知有之候間此段及御移牒候也）

明治四十年四月二十五日

醫務局



局員



外務大臣子爵林

董



海軍大臣齊藤實殿

0351

九龍報

送第六九號

供覽

今回伊太利國政府ハ千九百六十七年七月六日シエネヴァ

於テ調印セラレタル改正赤十字條約ノ批准書ヲ瑞

西國政府ニ寄託シタル勅ラビテ右ニ関スル保管証

軍務局書ノ認證牒申立係在本邦瑞西國公使ヨリ通

知事(局長)自右様(局長)在生(局長)乃通牒

於也

明治三十年四月廿五日

海軍大臣金子高信



醫務局

局員

海軍大臣金子高信

四六

0352

供覽

電

雜報

五月十六日 外務省へ返す



本信爲御参考供貴覽候間御用濟ノ上



ニ御返却相成度候也

明治四十年 月 日

軍務局

局員



高松海軍少佐殿

林 外務大臣

軍令部長



次長



各班



四

0353

報第(八号)

米國艦隊、組織変更ニ関スル件報告

本月九日發行當地新聞ケイブルニユリスノ報ス  
ル所ニ依ルハ米國亞細亞艦隊司令長官デイトン少  
將ハ太平洋艦隊、組織ニ関シ今般左ノ意思味、命  
令ニ接シタル由ニ有之矣

デイトン少將ヲ亞細亞艦隊司令長官ニ任シガルウエス  
トニ型ノ四艘ヲ以テ比律賓支隊ヲ組織シ小砲艦ノ  
若干ヲ常ニ日本及清國近海ニ配置スベシ  
全艦隊ハ一年一回司令長官ノ指定スル地点ニ會シ  
海戰実習及演習ヲナスベシ  
比律賓支隊ハ太平洋沿岸ニ其司令部ヲ置キ時

タマニラ、カビテニ回航スルヨトニナルベシトノ豫想ナリト右  
十國時ニ各艦長ノ交送有之矣  
右及報告其同其竹助ノ法移牒初成度此般  
申進之矣 敬具

明治四十年四月十日

在マニラ

領事 赤坂正助

外務大臣子爵林 董殿

以別紙同新聞切換添付致遣矣

0355

Combining Order Received by Admiral.

Several Changes in official personell of the Big four Indicated.

The order, organizing the pacific fleet, has been received by Admiral Dayton, Commander-in-Chief of the Asiatic squadron. The order provides that Admiral Dayton will be Commander-in-Chief and that four ships of the Galveston type are to be the Philippines division. A certain number of small gunboats are to be assigned permanently to Chinese and Japanese waters. The whole fleet will assemble once a year for battle practice and maneuvering, the place to be designated by the Commander-in-Chief. It is supposed that the big ships will make their headquarters on the Pacific Coast and come to these waters at stated intervals.

Several changes have been made in the Commanding officers of the Big Four. Captain Ward, formerly Chief of staff of the squadron, has relieved Captain McLain in Command of the Pennsylvania, the latter will return to the United States to await orders; Captain Thompson of the Maryland, has been ordered to relieve Captain Ingersoll in and Captain Milton relieved Captain Arnold of the West Virginia. Captain Milton, Thomas and Harris - the latter has Command of the Olongapo and Cavite naval stations - were on the Dakota, enroute to this station, when the steamer was wrecked. They lost all their personal effects and baggage and were obliged to stay over at Yokohama and get fitted out. The Big four which recently returned to these shores made a trip, while in Northern China, from Shanghai up the Yangtze river 240 miles to Nanking, where the Ming tombs are located to call upon the Viceroy of that province. It is said that

0356



this is the first time a fleet of that size has ever made the trip to Nankin.

The West Virginia, Colorado, Pennsylvania and Maryland are now anchored off Cavite and will remain in these waters until about May 1, when they will make their summer cruise to Japan.

第一  
按成通船史

0357